

「高校スペイン語教師の会」設立に向けて

遠藤 杏(慶應義塾大学大学院) 各務 恭子(兵庫県立国際高等学校ほか)
高野 正之(奈良県立国際高等学校) 寺尾 美登里(関西学院大学ほか)
日比野 規生(神奈川県立深沢高等学校) 廣瀬 瞳(上智大学大学院)

1. はじめに／高校スペイン語教育の現状と課題

本発表では、高校のスペイン語教育に携わる6名の教師が、「高校スペイン語教師の会」設立に向けた準備状況を共有するとともに、このような高校の外国語教員ネットワークがもたらす可能性について言及する。

高校のスペイン語教育の現場では、高校における学習指針等が存在せず、各教員に委ねられている部分が多い。例えば、学習指導要領では英語以外の外国語に関しては「英語に準ずる」としか記載されておらず、教科書に関しても「高校生向け」と明示された教科書は一冊しかなく、大学生や一般向けのものを使用するか教材等を各教員が自作している。このような状況の中で、スペイン語教員の多くは各学校に一人しかおらず、困った時に指導法や授業運営に関するアイデアを共有できる人が周りに少ないことが現状である。そこで、そのように孤軍奮闘する高校のスペイン語教師のネットワーク設立が必要なのではないかと考えた。

2. 高校の外国語教員ネットワーク

上記のような状況は、スペイン語のみに限らず、英語以外の外国語においても同様である。しかし、英語以外の高校の外国語教員のネットワークに関しては、中国語の高等学校中国語教育研究会、韓国語の高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク、ドイツ語の高等学校ドイツ語教育研究会、フランス語の日仏高等学校ネットワークなど、会の規模や趣旨に多少差があるものの、各言語の外国語教育に携わる高校の教員同士がつながることのできる組織やネットワークが20～30年前から存在している。

しかし、スペイン語の場合は、スペイン語教育に関連する組織として、GIDE(スペイン語教育研究会)とTADESKA(関西スペイン語教授法ワークショップ)という2つのグループが存在するが、どちらも大学のスペイン語教員が多く、他言語のように高校の現場に特化した団体は存在しない。

3. 会設立による可能性

高校のスペイン語教師のネットワークを作ることで、現場における授業実践の悩みやアイデアを共有することはもちろん、大学をはじめとしたスペイン語教育に携わるあらゆる団体との連携が可能であると考えられる。例えば、採用情報の共有や、教育実習生の受け入れ先や見学先の提供、高校のスペイン語教育に特化した学習指針や教材の作成、ワークショップ等の開催、高校生の留学支援やコンテスト等の開催などが考えられる。このような会の設立は、高校のスペイン語教育を充実させていくための取り組みになり得ると言えるだろう。

4. 会設立に向けた準備状況と今後の予定

会の設立に向けて、発表者らは現在、最初の取り組みとして2024年3月24日に「第1回 高校スペイン語教師の交流会」の開催を企画している。これは、会を設立する前に高校のスペイン語教員が一堂に会し、教師同士の繋がりを持つ場を目的としたオンライン上の交流会である。初の試みとなる今回は、対象者を現在教えているもしくは新年度から教えはじめるスペイン語教員に限定し、グループセッションとして「授業の成功体験」と「お悩み相談・Q&A」をテーマに話し、全体ディスカッションとして「現場にある課題と教師の会に期待すること」について意見を出し合い、高校の教師たちの会へのニーズ等を確認・共有する予定である。

以降の予定としては、2024年夏に第2回目の交流会の開催を検討しており、最終的に2025年を目途に「高校スペイン語教師の会(仮)」を立ち上げることを目標としている。

5. 高校の外国語教員ネットワークの展望

現在はこのような高校のスペイン語教師の会の設立を目指しているが、英語を含む各言語に存在する高校の外国語教員のネットワークが連携・交流することで、高校の外国語教育全体の底上げに寄与する可能性があると考えられる。例えば観点別評価やICTの活用に関する研修や授業のアクティビティ集の作成など、それぞれの言語内で行なっている取り組みを、言語の枠を超えて共有することが可能ではないか。また、各学校で教員を必要としている際に他の言語と連携して探せるような人材ネットワークの拡大も考えられる。

本発表は、高校の外国語教育に携わる教員が、この種の教員ネットワークの存在意義や繋がりの可能性を考えるきっかけとなることを期待する。